

D11

避難所における感染症対策

山下仁実 野澤光咲

要 旨

日本は災害が多い。それに伴い避難所の利用は必要不可欠になる。2020年は世界中でコロナウイルスが蔓延し「三密回避」という言葉がなにをするにも付きまってくる時代となった。私たちはまさに「三密」になってしまう避難所での生活でいかに感染対策を行い、そして快適に過ごせるか調べることにした。感染症対策、快適さを兼ねた避難所生活での道具がないか調べていたところ、九州豪雨の際、避難所で段ボールベッドが使われていることを知り、自分たちで作れないかと思いそれに焦点をあて調べることにした。加えて校内での災害に対する意識調査を行い、防災対策について調べることにした。

1 目的

私たちが目を付けた段ボールベッドは感染対策と快適さを兼ね備えているのか。感染症対策・快適さを両立した避難所ができるのか。そして校内の防災意識を認識し、どのくらいの人が災害を身近に感じているか調査し、研究を進める。

2 方法

- ① コロナ禍での他県の避難所生活についてみる⇒どのような対策をとっているのか、参考に（インターネット）。
- ② 甲陵高校の事務長で北杜市の職員である小澤事務長にお話を聞く⇒避難所の様子を（インタビュー）。
- ③ 段ボールベッドを自分たちで作る。
- ④ 甲陵高校2年生に防災に対するアンケートを実施⇒防災意識について調べる。

3 結果

【1. 他県の避難所生活の様子】

Ⅰ：2020年7月の九州豪雨での避難所生活を写真で見る⇒パーテーションなどを使い他人との間隔は一定に保たれている。写真を見る限り、お年寄りなどには段ボールベッドを用いていた。避難所では三密になり感染が増えると危惧していたがソーシャルディスタンスを保ち、感染症対策をしていたため感染者が一気に増加することはなかった。⇒三密回避、感染対策を徹底していた。

【2. 小澤事務長にインタビュー】

Ⅰ：北杜市の避難所は感染症対策をとる予定か。

Ⅱ：段ボールベッドは使っているのか。

（Ⅲ：避難所では食料や水などの備蓄品は確保できているのか。）

Ⅰ：北杜市は感染対策をとる。他人との間隔は2m離し、ダンボールのパーテーションなどを用いることで飛沫感染を防ぎ、収容人数を減らすなど、安全に避難所を使用できるようになっている。〈写真：インタビューの様子〉

Ⅱ：今回が初めての取り組みであり、まだ成果はわからない。また段ボールベッドは国から支給され、山梨県北杜市の各町に分割され支給されている。甲陵高校のある長坂町には50個支給されており、長坂総合支所に保管されている。

⇒長坂総合支所に行き実物を見ることにした。

（Ⅲ：甲陵高校も避難所に指定されているため、即席の食料や何年ももつ水などが備蓄されている。長坂の避難所の備蓄品の数は長坂総合支所で聞くことにした。）

【3. 段ボールベッド政策】

段ボールを確保し自分たちで作ろうと試みた。



写真1

人が乗るとなると耐久性とスペースが必要であったが、スペースだけ取り、段ボールベッドの使用が一回きりになってしまう点から自分たち

での製作は断念した。そこで小澤事務長に相談したところ、長坂総合支所で実際に使う予定の防災セットがあると聞いたのでフィールドワークを行うことにした。実物を見て



写真2

ベッドを組み立ててみた。予想以上に軽くコンパクトであり、なおかつ頑丈であった。一人でも作れそうな簡単な設計であった。〈写真1〉実際に乗ってみると安定していて快適であった。〈写真2〉のように高校生二人が乗れる広さである。

【4.甲陵高校2年生＋先生方にアンケート】

防災意識についてのアンケート

2年 野澤光咲 山下仁実

私たちは避難所生活について調べています。「自分たちがもし避難所で生活するときのこと」を考えたことがありますか。防災意識を調査するためにアンケートの協力をよろしくお願いします。

1. 台風や地震などで避難所を使うときにどのようなものを何日分もっていきますか。
(一人分で回答してください。)

例) 食料3日分 水4日分

2. 避難生活において何が重要だと思いますか。

例) 快適さ 感染防止対策

3. 避難所に何が完備されていると思いますか。該当するものに丸を付けてください。

備蓄食料 水 お風呂 トイレ 電源プラグ マスク 消毒液 ポット
その他 ()

4. あなたの家では避難所に持っていくものを準備してありますか。

はい ・ いいえ

「はい」の人に質問です。どんなものを準備してありますか。該当するものに丸を付けてください。

食料 水 毛布 ラジオ 化粧品類 歯ブラシ モバイルバッテリー 充電プラグ
その他 ()

「いいえ」と答えた人に質問です。準備していない理由を教えてください。

例) 面倒くさいから。 災害が来る現実味を感じないから。

学級長が集めてください。12月9日に2-1 山下仁実が回収しに行きます。
ご協力ありがとうございました。

↑実際のアンケート用紙

甲陵高校2年生・先生方を対象にアンケートを行った。(回答数 102)
防災意識を調査する基本的な質問事項を記した。
以下の回答はアンケートから得た結果である。

Q: 台風や地震などで避難所を使うときにどのようなものを何日分持っていくか。

A: 食料・水ともに3日分持っていく人が多かった。ちなみに甲陵高校は避難所に指定されているので備蓄は2000食ある。

Q: 避難所に何が完備されていると思うか。

A: 主に備蓄食料や水、トイレ、電源プラグなどが大半であった。しかし、備蓄食料にも限りがあるので自分たちで避難の際に持っていくことも大事である。また、電源プラグが次に多かった。しかし一度には多くの人が使えないので各自がモバ

イルバッテリーなどを準備していくことも大切である。

Q: あなたの家では避難所に持っていくものを準備してあるか。

A: いいえと答えた人が大半を超えた。理由としては山梨県には避難が必要なほど大規模な災害があまり来ないことや、その意識からか、なかなか準備しようとしても気が進まないと書かれていた。このことから甲陵高校2年の防災意識は比較的低いことが明らかになった。

4 考察

甲陵高校の小澤事務長や長坂総合支所の原さんにお話を聞き、感染症対策を徹底した避難所が開設される予定があることが分かった。段ボールベッドは予想以上に快適であり、今後活躍しそうである。また、アンケートの結果から甲陵高校2年生の防災意識は低いことが分かった。山梨県は災害が少ないので危機感が小さいことが第一の理由と考える。またアンケートの最後に多くの人が災害が起きた時の準備をしようとする気持ちだけで終わっていると記述があった。これを踏まえてどうしたら防災意識が向上するか今後取り組んでいく必要性があると考えた。

5 結論

高校生二人で段ボールベッドを製作するのは困難である。しかし、段ボールベッドは今年初の試みであるため実際の避難所などでの使用感はまだ分からないが、フィールドワークから段ボールベッドは快適であったため私たちの目的である快適さは確保することができる。加えて床から距離が取れるため、感染症対策にも役立つと考える。また防災意識が低いことに関しては今後学校にポスターを貼るなどして校内全体で意識を高めていきたい。

参考文献

「ダンボールでベッドをつくろう」
https://www3.nhk.or.jp/news/contents/bousai_tips/cont19.html

甲陵高校 小澤事務長
長坂総合支所 原ゆかりさん
きららシティの皆さん